

東京医科大学整形外科学分野
(戸田中央総合病院)
専門研修Ⅱ型プログラム

東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）

専門研修Ⅱ型プログラム

目次

1. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修Ⅱ型プログラムについて
2. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の特徴
3. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の目標
4. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の方法
5. 専門研修の評価について
6. Ⅱ型研修プログラムの施設群について
7. 専攻医受け入れ人数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域との連続性について
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 専攻医の採用と修了

1. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修Ⅱ型プログラムについて

東京医科大学では「人間愛と奉仕の精神に基づいて良質な医療を実践する」ことを理念としています。整形外科学分野としては、この理念を達成するための専門研修プログラムとして（1）高い倫理観を持つ（2）最新の豊富な知識を取得する（3）安心で安全な医療を心掛ける（4）プロフェッショナルリズムに基づく（5）患者の権利を尊重した医療を提供する、以上のことを重視しております。さらに全人的な整形外科診療を提供するとともにチーム医療を円滑に実践できる研修を行います。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性で、新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となります。

この多様な疾患・病態に対する専門知識・技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する研修を行います。

整形外科後期研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、基幹施設および連携施設全体において年間新患数40000名以上、年間手術件数およそ5000件以上の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。

また、東京医科大学整形外科学分野主催の研究会（西新宿整形外科研究会、西新宿整形外科懇話会など）への参加（年12回）、東京医科大学医学会総会での発表（3年9ヶ月目まで毎年1回）、関東整形災害外科学会集談会での研究発表並びに論文投稿（1年目終了時まで1回、1編以上）、日本整形外科学会、日本整形外科学会基礎学術集会への参加を奨励、および各種学会・研究会での発表と論文投稿（3年9ヶ月終了までに1回以上、1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

希望者は、1年目より大学院医学研究科博士課程に入学し、研修医として勤務しながら研究を開始することも可能です。本研修プログラム履修によりサブスペシャリティ領域の研修を開始する準備が整えられます。横浜市立大学は、市民が心から頼れる病院として、高度でかつ安全な医療を市民に提供するとともに、質の高い医療人を育成することを理念・使命としています。整形外科学としてこの理念・使命を達成するために整形外科医として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関する基本的・応用的・実践能力を修得する必要があります。整形外科専門医は、運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、日々進歩する医学の新しい知識と技術を修得し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い臨床能力を有することが求められます。わが国は超高齢社会となり、このような医療情勢において、高齢者の生活の質の維持向上、精神的・内科的併発症を予防するべく、整形外科医の果たす役割は益々高まっています。整形外科専門医は運動器を総合的に管理することが求められ、保存療法および外科的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、また、骨折などの外傷、スポーツ障害、脊椎疾患、関節リウマチなどの炎症性関節疾患、変形性関節症などの退行性変性疾患など多岐にわたる運動器疾患に関する良質かつ安全な医療を提供する使命があります。

2. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の特徴

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。基幹施設である戸田中央総合病院及びI型基幹病院である東京医科大学における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修を行うことができます。

研修終了後は東京医科大学にてサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学で研究の幅を深める選択肢もあります。サブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、それぞれの専門領域の診療班に所属し、東京医科大学整形外科ならびに連携施設において専門領域の研修を行います。

東京医科大学整形外科は1949年に初代野崎寛三教授のもと開講され、2代三浦幸雄教授、3代今給黎篤弘教授と続き、2004年からは山本謙吾教授が教室を主宰しています。その特徴として、当科では大まかに脊椎班、関節班、スポーツ・関節鏡班、外傷班そして、腫瘍班といった5つの診療班にわかれ専門的な治療を行っています。リハビリテーションセンターのセンター長も山本謙吾教授が兼任しており、術後のリハビリにも力をいれております。リハビリセンター在籍の医師も当整形外科出身であることから、クリニカルパスを用いた有機的なリハビリプログラムを実施することが可能です。スポーツ・関節鏡班では、プロサッカーチームのチームドクターを務めている関係で様々な競技のスポーツ選手を受け入れ診療にあたっております。

現在、整形外科内に大学院講座と2つの寄付講座を持ち、1. 関節外科特にバイオメカニクスおよび摺動面の特性の研究に基づいた人工関節新素材の開発やオステオライシス防止に関する治療戦略の確立 2. 脊椎外科特に脊柱靭帯骨化症の病態解明と予防・治療法の確立ならびにバイオメカニクスの観点からの各種脊椎・脊髄疾患の病態解明 3. 骨代謝・軟骨代謝の免疫学的アプローチをさらに充実させることにより各種物理刺激を用いた骨折治癒促進および骨・軟部腫瘍の分子生物学的治療の確立、これらを教室の研究の柱として研究を進めております。

① 戸田中央総合病院 整形外科

戸田中央総合病院 整形外科は、外傷疾患、関節疾患、脊椎疾患、スポーツ傷害、骨粗鬆症など幅広い整形外科領域において、地域の中核病院として近隣の医療機関の先生方と協力しながら最良の医療を提供しています。紹介症例を中心にMRI等の各種検査を行い、的確な診断のもと保存的加療であれば紹介もとへの逆紹介、手術適応であれば速やかに当院で治療を行い、必要であれば大学病院あるいは高度専門医への紹介を行っています。大学関連施設として毎週、関節、脊椎、骨軟部腫瘍、手の外科など各領域のスペシャリストによる専門外来で幅広く対応しています。急性外傷、小児骨折など緊急手術を要する症例に対しては救急科、麻酔科と連携を行い迅速な対応が可能です。

専門領域

1. 外傷一般：成人・小児四肢長管骨・骨盤に対するプレート固定術や髄内釘固術、人工骨頭挿入術、創外固定術

2. 関節疾患：変形性関節症、リウマチに対する最小侵襲手術法による人工関節全置換術（肘、股、膝）及び単顆型人工膝関節置換術、人工関節再置換術
3. スポーツ傷害：関節鏡視下手術（膝・足関節）靭帯再建術（前後十字靭帯）、半月板損傷（縫合術・切除術）、軟骨損傷（骨髄刺激法、骨軟骨柱移植術）、膝蓋骨脱臼に対するMPFL（大腿膝蓋靭帯再建術）、アキレス腱断裂（保存療法、観血的治療）、筋腱損傷、慢性膝蓋腱・アキレス腱炎に対する保存療法 慢性疲労性骨障害（疲労骨折に対する手術療法及び超音波治療）
4. 脊椎疾患：腰椎椎間板ヘルニアの神経根ブロック、腰部脊柱管狭窄症の点滴治療、脊椎圧迫骨折の装具加療、頰椎・胸椎・腰椎外傷、変性疾患に対する手術治療
5. 末梢神経傷害：肘部管症候群や手根管症候群の神経剥離除圧術
6. 手の外科：手指腱断裂の縫合術、狭窄性腱鞘炎の手術治療、ばね指手術療法
7. 足の外科：足関節脱臼骨折に対する観血的手術、外反母趾、扁平足に対する保存療法・手術療法、前方・後方アプローチによる足関節鏡手術（骨軟骨障害、骨棘障害、遊離体、靭帯損傷、三角骨障害）
8. 骨・軟部腫瘍：良性骨軟部腫瘍に対する手術治療、悪性骨軟部腫瘍の診断および専門医療機関への紹介
9. 骨粗鬆症：診断（Dexa、血液検査）及び薬物治療

戸田中央総合病院整形外科週間予定（共通）

	月	火	水	木	金	土
朝	病棟カンファ 医局会	朝カンファ	朝カンファ	術前カンファ 病棟ラウンド	抄読会	朝カンファ
午前	手術	外来	病棟	手術	外来	病棟・検査
午後	病棟	病棟・検査	病棟・検査	手術	手術	—

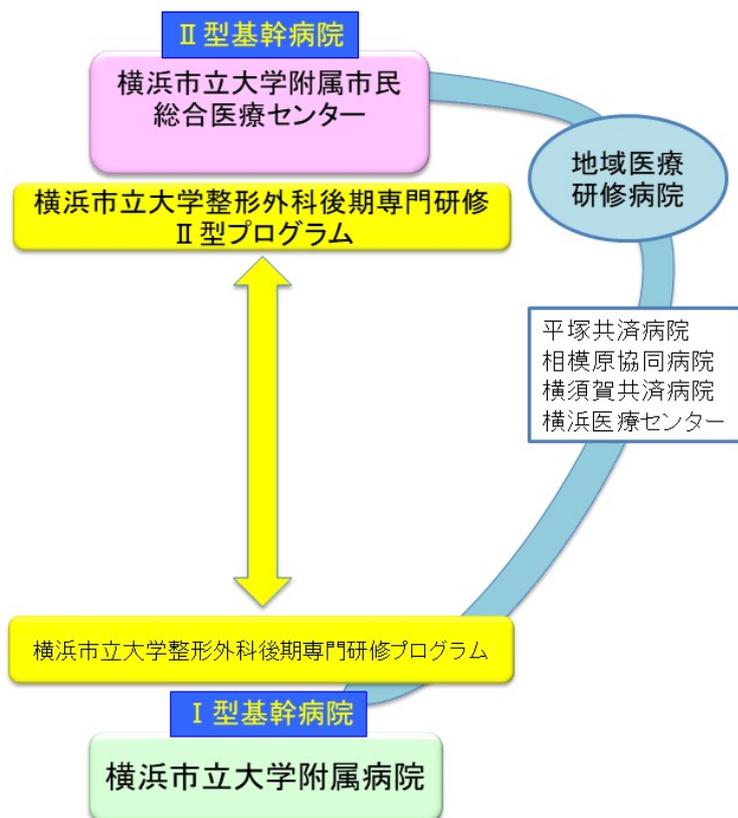
② 専門研修連携施設

当専門研修プログラムでは、Ⅰ型基幹施設として東京医科大学病院、Ⅱ型基幹施設として戸田中央総合病院があり、地域医療研修病院として東京医科大学八王子医療センター、東京医科大学茨城医療センター、熱海所記念病院が連携施設として登録されています。

Ⅰ型およびⅡ型基幹施設では外傷に対する研修に加えて、専門性の高い研修を受けることができます。地域医療研修病院では地域医療の拠点として、地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。いずれの連携施設も豊富な症例数を有しており、高い研修効果が得られます。また執刀した症例は原則として主治医として担当することで、医師としての責任感や、患者やメディカルスタッフなどと良好な信頼関係を構築する能力も育んでいきます。

③ 研修コースの具体例

当専門研修コースの具体例として別表のごとく、戸田中央総合病院整形外科の専門研修施設群の各施設の特徴に基づいたコースの例を示しています。原則として1年目から4年目の間に基幹施設である戸田中央総合病院で半年以上、I型基幹施設である東京医科大学病院で半年以上の研修を行います。流動単位の5単位については、必須単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望するサブスペシャリティ分野を重点的に研修することが可能です。



4年間のローテーション

	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医 ①	戸田／大学	地域医療研修施設	地域医療研修施設	地域医療研修施設
専攻医 ②	地域医療研修施設	戸田／大学	地域医療研修施設	地域医療研修施設

専攻医別取得単位例

	専攻医①					専攻医②				
	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
1.脊椎 6単位		4	2		6			6		6
2.上肢・手 6単位		3	2	1	6				6	6
3.下肢 6単位	6				6	6				6
4.外傷 6単位		2	2	2	6			3	3	6
5.リウマチ 3単位			3		3	2	1			3
6.スポーツ 3単位			3		3		3			3
7.小児 2単位	2				2	2				2
8.腫瘍 2単位	2				2	2				2
9.リハビリ 3単位		3			3		3			3
10.地域連携 3単位				3	3				3	3
流動 5単位	2			3	5		2	3		5
合 計	12	12	12	9	45	12	9	12	12	45

3. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の目標

① 専門研修後の成果

プログラムを修了した専攻医は、運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力が身についた整形外科専門医となることができます。専攻医は研修期間中に(1)患者や医療関係者とのコミュニケーション能力 (2) 診療記録の適確な記載 (3) 医の倫理、医療安全等への配慮 (4) 基礎医学・臨床医学の知識や技術の修得 (5) 後輩医師への教育・指導 についても習得できます。

② 到達目標

1) 専門知識・技能

専攻医は整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を培います。運動器に関する幅広い基本的な専門技能を身につけます。

2) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を解明する意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得できることを目標としています。

学術活動として、東京医科大学整形外科学分野主催研究会への等参加および同会での発表、外部の学会での発表、論文作成（1編以上）を行います。

3) 医師としての倫理性、社会性など

③ 経験目標

1) 経験すべき疾患・病態

基幹施設である戸田中央総合病院では外傷疾患、関節疾患、脊椎疾患、スポーツ傷害、骨粗鬆症など十分な症例数があり、基幹施設と連携施設での切れ目ない研修で経験すべき疾患・病態は十分に経験することが出来ます。また地域医療研修病院においては地域医療から様々な疾患に対する技能を経験することが出来ます。

2) 経験すべき診察・検査等

整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は専門技能習得の年次毎の到達目標に示してあります。

3) 経験すべき手術・処置等

整形外科専門研修カリキュラムに明示した一般目標及び行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。

当専門研修プログラムの基幹施設である戸田中央総合病院整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験

整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病診連携の実際を経験します。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得します。また、年 1 回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中 1 編以上の論文を作成します。

東京医科大学整形外科学分野が主催するセミナーに参加することにより、多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。東京医科大学整形外科学分野セミナーへの参加、さらに同会での研究発表を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

4. 東京医科大学整形外科学分野（戸田中央総合病院）専門研修の方法

① 臨床現場における学習

研修にあたっては1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9カ月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

術者として経験すべき症例については、整形外科専門研修カリキュラムに示した（A：それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

② 臨床現場外での学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。また、東京医科大学整形外科学分野が主催するセミナーに参加することにより、多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広くより深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要です。どの領域から研修を開始してもコアコンピテンシーを身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによってコアコンピテンシーを早期に獲得します。

- 1) 具体的な年度毎の達成目標は、資料：専門知識習得の年次毎の到達目標及び、専門技能習得の年次毎の到達目標を参照してください。
- 2) 研修で修得すべき分野は、運動器官を形成するすべての疾患を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この幅広い研修内容を修練するにあたって、研修方略に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9カ月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。
- 3) 戸田中央総合病院・東京医科大学病院及び各研修施設の医療倫理・医療安全・院内感染講習会に参加し、その参加状況を確認します。

5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設異動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。

指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

② 総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修4年目の3月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

修了認定は以下の全てを満たしていることが条件となります。

1. 修得すべき領域分野に求められる必要単位を全て満たしていること。
2. すべての必修項目について目標を達成していること。
3. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
4. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、必要な単位を修得していること。
5. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. II型研修プログラムの施設群について

専門研修基幹施設

戸田中央総合病院整形外科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

東京医科大学整形外科学分野専門研修II型プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

東京医科大学病院（I型基幹病院）

東京医科大学八王子医療センター

信濃医療福祉センター

多摩丘陵病院

福島労災病院

右田病院

熱海所記念病院

昭島病院

関口病院

熊谷外科病院

中野江古田病院

アントラーズスポーツクリニック

島田台総合病院

専門研修施設群

東京医科大学整形外科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

専門研修施設群の地理的範囲

東京医科大学整形外科学分野専門研修II型プログラムの専門研修施設群は近隣の東京都内および埼玉県内、群馬県、茨城県、福島県、静岡県、長野県、千葉県にあります。施設群の中には、地域中核病院が含まれています。

7. 専攻医受け入れ人数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×3となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数が500例、年間手術症例を40例）×専攻医数とされています。

この基準に基づき、東京医科大学整形外科学分野専門研修II型全体の指導医数は33名、年間新患数約50000名、年間手術件数6000件以上と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために1年6名、3年9ヶ月で24名を受入数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主に一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また、周囲医療機関との病診連携、病病連携を経験し習得します。研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることになります。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

東京医科大学整形外科学分野専門研修Ⅱ型プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手の外科、関節リウマチ等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である戸田中央総合病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年1回開催を必須とし、検討事項が生じた場合は適宜開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。

3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。

1 2. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を行います。

② 人間性などの評価の方法

指導医は医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③ プログラム運用マニュアルの整備

日本整形外科学会が作成した 1) 整形外科専攻医研修マニュアル(日本整形外科学会ホームページ参照)、2) 整形外科指導医マニュアル(日本整形外科学会ホームページ参照)、3) 専攻医取得単位報告書、4) 専攻医評価表、5) 指導医評価表、6) カリキュラム成績表を用います。

1 3. 専門研修プログラムの評価と改善

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。

② 専攻医等からの評価のフィードバック

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価内容を匿名化した上で、研修プログラム管理委員会に提出します。研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応します。専門研修プログラム更新の際には、評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

1 4. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

応募資格

初期臨床研修修了見込みの者、もしくは修了している者。

採用方法

基幹施設である戸田中央総合病院に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページにて公表すると共に病院見学を適宜行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東京医科大学整形外科学分野専門研修Ⅱ型プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。申請書は東京医科大学病院卒後臨床研修センター(<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/hospinfo/kensyu/index.html>)又は戸田中央総合病院(<https://www.chuobyoin.or.jp>)よりダウンロード可能です。原則として日本専門医機構が定める期間に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に通知します。

② 修了要件

- 1) 修得すべき領域分野に求められる必要単位を全て満たしていること。
 - 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
 - 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - 5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上 1) - 5) の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。